

# ★ 滝沢ニュータウン自治会 ★



平成3年のバブル崩壊で、当自治会も全国同様に景気低迷・共働き家族の増加に相まって少子高齢化が進み、10年前に比して現時点で凡そ70世帯が減少、65歳以上の高齢化率は平成20年1月現在で22.4%となりました。滝沢村全体の14.8%を大きく上回っています。

こうした状況下で、明るい地域づくりの為に花見会や夏祭り盆踊り大会・高齢者の集い・工区対抗大運動会・研修旅行など多種多様なイベント活動を実施して来ましたが、いつの日か住民たちは、顔が見えない希薄な近隣関係になってしまい、徐々に自治会からも離れ始めて行きました。

そこで、当自治会では、数年来重点目標にしてきた明るい地域づくりと住民の連帯意識の高揚の為に、「滝沢ニュータウン夏祭り盆踊り大会」を「滝沢ニュータウン夏まつり」と改め、平成19年、平成20年の2年間を通して目的意識と運営内容の大改革を断行しました。

それは、「大人も子供もみんな一緒に祭りをつくり、みんなで楽しい夏の思い出をつくろう！」であり、特に平成20年は、運動会の大イベントを廃止して大幅な予算を編成、そして、役割分担を決めた役員・住民・近隣商工団体の結束したスタッフ140名の実行委員会を結成、会場も自治会事務所前広場に変更して大ステージを造り、その周囲に飲食や遊び物の16店舗を構えた大変革だったのです。スタッフは、様々活気溢れる働きをしてくれました。内容は、団地の子供たちが通う滝沢南中学校吹奏楽演奏のオープニングショーから始まり、蒼前みこしの祭り応援、団地内の幼稚園児・保育園児・小中学生たちの可愛い手踊りや爆笑スポーツゲームがあって、女性部の手踊り、餅まき大サービスと続き、夜は、ゲスト歌手の「演歌・民謡スペシャルショー！」と伝統さんさ太鼓を迎えての「みんなで踊ろう！さんさ輪踊り」で楽しみました。この日は、総勢200名の出演者が参加、会場も1,500人を越える賑わいとなり、これまでにない夏の思い出になったと思います。



今年の4月23日に開催した平成23年度の総会で、遠藤信雄会長は、役員総意を代表して、今後の当自治会のあり方や展望の大枠を提案しました。その内容は、住民の目線に立った信頼されるための活動と努力を行ってこなかったことを深く反省して、これからは、住民みんなが参加しやすい活動の工夫をより多く取り入れて、地域の輪と活性化を大切にしたい新たな自治会に変革しようとする活動方針を示し、具体的事業計画として、◆自治会と住民の交流かわら版「自治会報」の発行

◆子供も大人も汗を流してみんなで野菜を作れる「滝沢ニュータウン農園」の計画実施、  
◆高齢者の方々が気軽に集まって楽しく交流しながら、介護予防、閉じこもり、機能低下予防及びお茶飲み場として高齢者を支える地域づくりを目的とした「いきいきサロン」の開設提案をしたのです。

昨今では、公園の草取りや花壇造りなどの「公益性」のある仕事を目の前で見ながら、「自分には関係ない」と感じてしまっている住民が急増しつつありますが、こうした事への対処の工夫が急務であり、「自治会再生」の大きな鍵であります。従って、当自治会は、この事を突破口として、住民みんなが参加しやすい活動の工夫を、柔軟な発想と活動で様々発見したいと考えています。

次に、今年の3月11日に発生した東日本大震災を受けての対応について報告致します。当自治会では、今年度の夏まつりを中止して、その予算費用の一部30万円と上記総会後に開催した「がんばれ岩手！チャリティ懇親会」で集めた募金を、岩手県被災地の皆さんに義援金としてお送りして復興の為に少しでも役に立ててもらおうと役員会で決定、総会に提案して大拍手で承認されました。滝沢ニュータウンの募金総額は、「自治会連合会東日本大震災義援金」滝沢ニュータウン住民募金総額と合せて、合計 984,273円となりました。当自治会では、被災地の早期復興を心より願っております。